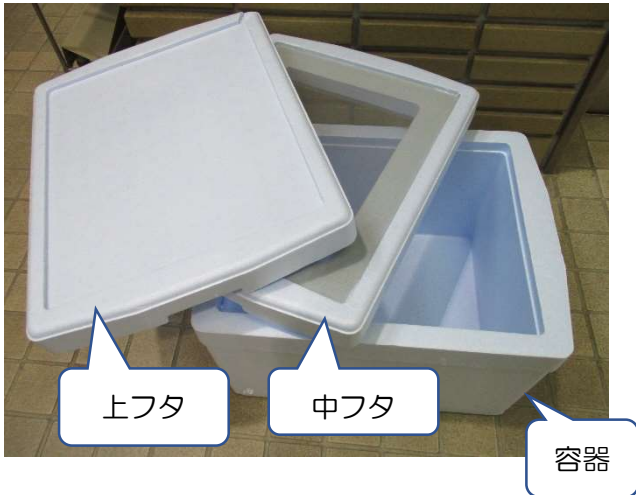


処理手順



フタ付きのバケツ等を用意して2日～3日分溜めてから処理すると効率的です



手順1：フタを取り容器に母材を投入します。



手順2：深く穴を掘り、生ごみを投入します。
※穴は出来るだけ深く掘りましょう。



手順3：スコップで母材と生ごみをよく混ぜます。 手順4：生ごみの上に母材をかけてフタをします。
数日で生ごみが分解されます。



これまでの利用者の感想まとめ

●よくある質問とその回答

Q：使用期限はありますか？

A：特に決まった期限はありません。母材が粘土質になり分解が進まなくなったら母材を変えた方が良いでしょう。およそ1年から2年程度は継続して使用できると見込んでいます。

Q：生ごみの分解を繰り返した母材は肥料として使えますか？

A：肥料として使ってもらって構いません。落ち葉や他の土と混ぜて数日休ませてから使用するよう to してください。

Q：母材と補助材が無くなってしまったらどうすればいいですか？

A：母材（さば節）が無くなった場合は下記事業所へお問い合わせください。

小石安之助商店（浜当目2丁目6-7）TEL628-2472 1袋(2kg)約1,000円

補助剤が必要な際は、下記までお問い合わせください。

企業組合 荒れ放題改善委員会 TEL 080-7253-7585 1袋約500円

※在庫が無い場合もあるので事前に電話にてお問い合わせください。

●虫対策

- ・上フタと中フタの間で蚊取り線香を炊いたら虫が寄ってこなくなった。
- ・虫が発生した時、フタを外してビニール袋で包んで炎天下に放置したら中の虫は全滅していた。
- ・フタの裏側に防虫剤を貼った。
- ・出来るだけ深く埋めるのが一番の虫予防だと感じた。

●使い方のコツ

- ・生ごみを空のヨーグルトパックに入れて冷蔵庫で保管。パックの中が一杯になったら容器に投入を繰り返している。
- ・細かく刻むのが手間なので、刻まずに容器に入れて混ぜるときに、スコップである程度砕くようにした。
- ・投入時に、生ごみと母材を出来るだけよく混ぜた方が良い。しっかり混ぜることで発酵しやすくなる。
- ・分解しづらいもの（玉ねぎの外皮、卵の殻、枝豆のさや、バナナの皮等）は生ごみ処理容器に入れず燃やすごみとして処理するようにした。肉、魚も燃やすごみにしていた。（肉、魚は量が少ない割に虫や臭いの発生リスクを高めるから）
- ・生ごみを埋める所を左右2か所か四角4か所と決めて、ローテーションで埋めるようにした。

●その他意見

- ・定期的に生ごみ処理を続けていると容器の中に菌が繁殖するようで、追加で補充する母材はピートモスだけでも生ごみは分解できている。
- ・廃油やドレッシング等を処理してくれるのがうれしい。
- ・それほど日当たりの良くない所に置いていたけれど、きちんと分解してくれた。
- ・皮は細かくしないと分解が遅い。